

「九州の未来力2030」第2回会合の概要

1. 開催日時：平成26年2月13日(木) 15時30分～17時35分

2. 開催場所：日本政策投資銀行九州支店 会議室

テーマ：「九州農業の6次化展開」

3. 議事概要

(1) 報告

「我が国の税・財政の現状と課題等」(福岡財務支局長 高木隆)

(2) プレゼンテーション

①「北部九州における6次化農業の現状等」(福岡財務支局長 高木隆)

<要旨>

- ・ 北部九州の農業就業人口は、65歳以上が約6割となっているなど、高齢化が進んでいる。
- ・ 一般法人の農業参入が増加しているが、条件のよい農地の確保、販路の開拓、資金調達などが参入の課題である。
- ・ 耕作放棄地面積は、この20年増加している。大規模(5ha以上)な農業経営体への集積が進展している地域はあるものの、農地が分散しているため生産効率が十分に上がっていないケースもある。
- ・ 九州は、他地域に比べ、農産物の輸出について関心が高い。一方で、輸出にあたっては物流が課題であるとの意見もある。

②「オランダ・イスラエルに見る最先端農業の現状等」

(日本政策投資銀行九州支店長 鈴木恵一)

<要旨>

オランダ、イスラエルともに、水不足や日照不足といった環境面での不利な点を克服すべく、応用研究に多額の資金を投じているほか、早くから「海外マーケット」を見据えた取組みを行っている。また、産学官が一体となり、知恵の共有化を図ることで、高い競争力を得ることに成功している。

③「アグリプレナーが拓く農業新時代」

(九州経済調査協会調査研究部次長 岡野秀之)

<要旨>

起業家精神を持った農業経営者「アグリプレナー(起農家)」の農業経営、農業ビジネスの分析等を通じて、持続可能な農業のあり方、九州の農業の将来像を展望する必要がある。

④「(株)グラノ24Kの取組み」

(株)グラノ24K代表取締役 小役丸秀一

<要旨>

1次産業(農業): 現在、葡萄、梅、茄子、トマトのほか野菜関係、米も少し作っているが、私どもだけが6次化を進めすぎると一社独占になるので、近隣の農家を巻き込んで地域全体が活性化することを意識して取り組んでいる。

2次産業(加工): 畑丸ごとお金になる仕組みを作れないかと、地域の規格外の野菜を生かしたドレッシングやジュースの開発などを行い、地元農家も一緒に可処分所得が増えるような取組みを行っている。

3次産業(サービス): 「献立ありき」ではなく「材料ありき」で、地元の旬の食材を活用したビュッフェ形式のレストランや寿司屋の運営など、地産地消をコンセプトとした取組みのほか、生産者の名前を前面に出した加工品の共同販売や、収穫後のブドウ畑での結婚式など、環境を生かしたブライダル事業なども展開している。

農業の未来: 食育や医療との関わりが大切になってくると思う。食育については、10年程前から取り組んでおり、ある学習塾と連携した食育体験教室も始めている。加えて、農業・漁業体験から調理加工、レストランサービスまでを一つの施設で体験できるプロの養成学校を作り、福岡の食材を生かした調理のできる人材を育成することで、福岡から新しい食文化を発信できればと考えている。また、医療機関や地域商店街と連携し、高齢者への栄養管理に配慮した食事の提供等の企画、提案も行っている。

「農業を守る」と「農村を守る」: 農業を守るのは大規模化など色々な方法があるが、過疎化していく農村を守るのは非常に難しい問題。ただし、諦めるのではなく、例えば休日のみ農業を行う「半農半〇(まる)」や、定年後の帰農などの取組みや仕組みを作っていくことが大事ではないかと思う。

(3) 意見交換（メンバーからの主な意見、一部、複数人の意見を集約）

- ・ 農業においてもマーケティング力、経営力が重要であり、ステークホルダーを如何に巻き込み、良い形でフィードバックするかという仕組みをつくることで、周りや地域に良い影響を与えることができるのではないか。
- ・ 農業を成長させるためには、6次産業化や規模の拡大に加え、強力なリーダーシップを持った人材の育成が重要。企画力、提案力のある（小役丸さんのような）人材を100人育成すれば九州にも新しい一次産業の世界が広がる。また、農業従事者以外の知恵を活用することも重要ではないか。
- ・ これからの農産物の輸出の方向性としては、「余りものの輸出」から「輸出のための農産物の生産」に転換することなどによって、最終的に生産者の所得増につなげていく必要があるのではないか。
- ・ 子供が農業体験等を通じて食材の大切さを学び、それが親に伝わることによって、親への「食育」効果も期待できる。
- ・ ブドウ畑での結婚式などグラノ24Kの屋外空間を楽しく有効に使うという発想は、都心の空間を面白くする仕組み作りにも生かせると思う。

4. 次回会合

日時 : 平成26年5月15日(木)

テーマ : 「東九州高速自動車道の開通と九州経済」

以上